

[02_01]九州大学大型計算機センター広報 : 2(1)

<https://doi.org/10.15017/4843902>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 2 (1), pp.1-56, 1969-02-26. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :



巻 頭 言

九州大学計算機委員会
委員長 北 川 敏 男

全国共同利用九州大学大型計算機センターの開設につきましては、日本学術会議はじめ全国各地の研究者各位にいろいろ御心配をかけて参りました。とくに西日本各地の大学におつとめの研究者の皆様からは、早期開設についての要望書をいただき、強い御鞭撻を賜っています。九州大学の大型計算機センター設置準備委員会の委員長として、昭和44年1月5日からの利用開始が実現できませんでしたことは、誠に申訳なく存じています。

同委員会は、九州大学の米軍機墜落事故に対する処理方針に直接関与しうる立場にはありませんので、九大内部だけの機関としての九州大学計算機委員会が直接その関係をうけたねばなりません次第でありました。九大側としましては、早期利用の趣意を実現するため、学内の他の場所における仮設を考慮しつつあることは、昨年9月中旬、設置準備委員会をひらき、他大学勤務の委員各位にもご説明申し上げ、また西利協の所属大学各位に懇談いただき、大方のご賛成を賜りましたことでありました。ところが学内仮設に関しましては、文部省当局等にいろいろ難色があり、容易に関係方面のご賛成、ご承認をいただくことができませんでした。

九州大学におきましては、基地対策委員会のなかに、大型計算機センター復旧委員会を設け、医学部長間田直幹教授を委員長として、この問題を、機体処理問題との関連において解決推進に当ることになっていましたが、昨年11月になりましてからは、小委員会の組織を確立、大学の内外にわたって、早期利用実現のためあらゆる方途を考え、かつ所要の交渉にも、委員総力をあげて努力して参りました。九州大学計算機委員会からも私どももちろん参加し、大野大型計算機センター長も加わり、さらに各学部各研究所から委員も加え、全学的に力を結集して参りました。

幸にして、昭和44年度のレンタル料等14,999千円が明年度文部省予算として計上される運びになりました。また九州電力株式会社のご好意により同社旧研究所あとの建物約600坪の建物のなかに、仮設して運用できるような見透しも立てられるような事情になりました。九州大学としましては、来る3月より利用可能にすべく鋭意努力中であります。

いずれ九州大学大型計算機センター設置準備委員会を開催し、正式かつ具体的に決定したいと存じています。以上のことを利用者各位に対し、ご報告申し上げますとともに、いろいろ御鞭撻、御支援賜りました各位に対して厚く御礼申し上げる次第でございます。

なお、さきに要望書を賜りました研究者各位に対しましては、九州大学を代表しまして原総長事務取扱から、利用要望者の代表各位に別に中間報告とともに、ご挨拶いたすことになっています。西利協の各位に対しましても、清水会長からいずれご挨拶あることと存じますが、とりあえず、私からも本誌を利用し、お詫びとご報告を申し上げます。次第でございます。

1969年2月2日